



教会のイルミネーション 子供たち感激!! (11月26日)

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959-00072
印刷・(株)才津印刷所

奇跡について

—あなたは奇跡を
信じますか—

(前号に続く)

主任司祭 小瀬良 明

(c) 不思議な漁

イエスが弟子たちに漁に行こうと言われた。その夜は何も獲れていなかった。イエスが網を舟の右側に打ちなさいと言われた。その通りにすると魚がいっぱいかかり、網を引き揚げることができなほほどであった。

(ルカ5の4～11、ヨハネ21の1～14)

(d) 実のないいちじくの木

イエスが空腹をおぼえられ、いちじくの実を食べようとされたがいちじくの実がなっていない。イエスはその木に向って、今後おまえの実を食べる者がないように言われた。

その後、そのいちじくの木は枯れてしまった。(マタイ21の18～22、マルコ11の12～14)

(e) 水をぶどう酒にかえる

イエスはカナという町で婚礼に招かれました。ぶどう酒がなくなりかけたので水がめに水をいっぱい入れて宴会係のところへ持ってゆくように言われた。宴会係がその水を味わってみるとぶどう酒になっていた。(ヨハネ2の1～12)

(f) パンをふやす

イエスは5つのパンと2匹の魚で5000人の人に満腹するまで食べさせられた。(マタイ14の13～21、マルコ6の30～44、ルカ9の10～17、ヨハネ6の1～15)

多くの自然災害、飢えに苦しむ多くの人々の姿を見聞きするたびに、イエスの力がこれらの出来事を解決するために働くことができればと、思わずにはいられません。私たちの主イエスには、これらの諸問題を乗り越える力があると信じます。

『新年の挨拶』

主任司祭 小瀬良 明

浦頭小教区の信徒の皆様、明けましておめでとうございます。今年も良き年でありますよう祈ります。

去年の四月末日に赴任致しまして、早八ヶ月が過ぎました。これまでの信徒の皆様の温かい思いと支援に、心から感謝致します。

小教区の歴史の書物を開いて見ますと、当教会は信徒発見以前より信仰生活が営まれ、下五島地区での大きな役割を果たして来られたことを知りました。多くの司祭、修道者の輩出は、そのことを物語っていると思われ

ます。私は諫早で生れ育ちました。小学校も七〇〇名余の児童数でありましたが、カトリック信徒は私の家族のみという状況でした。カトリック信徒の多い浦頭地区で生れ、育った方々とは相当な信仰面での違いがあったものと振り返ります。

司牧生活を通して、先祖の信仰を学ぶことができたと願っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

『新年の挨拶』



浦頭小教区
評議会議長
赤尾 栄

主のご降誕と

新年のお慶び申し上げます。昨年、岩崎神父様に頼まれ議長を引き受けましたが、何もかも新しい事ばかりで、毎月毎月何をどうすれば良いかわからず、大変な一年で皆様に助けていただき、お世話になった一年でした。有難うございました。

今年も一月から、堅信式、大司教様の小教区公式訪問、司祭団マラソンと、私にとっては経験のない事が続くようです。評議員の皆様にご教壇をいただき、遂行していきたいと思っております。来年は、小教区にとって大変喜ばしい事があります。小教区発足五十周年を迎えます。先人が守り伝えたかった信仰が、今日まで伝えられたことを感謝したいと思っております。五十周年式典を

平成三十一年九月に予定し、それに向けて計画を進めて行きます。教会も五十年過ぎると修理が必要な所も出てきております。小教区の皆様のご協力を仰がなければ出来る事ではありません。どうかよろしく御願致します。

一般的に言っても、五十年は大きな記念日です。結婚五十年の金婚式、司祭、修道者の金祝等、大きな御祝いと思えます。小教区発足五十周年を良く準備し、信徒一同で喜びを分かち合いたいと思えます。

新しい年、色々な行事・計画が出てくるものと思えますが、どうか御協力の程お願い致します。

新年早々から、皆様へのお願い事ばかりになってしまいました。ですが、どうぞよろしく願います。

最後になりましたが、今年も主任神父様と、小教区の皆様の上に神様の御恵みをお祈りし、新年の挨拶と致します。

小瀬良神父様の誕生日を祝う

十二月十二日で、七十歳を迎えられた神父様のお祝いが、十日の夕方より神羊館ホールで行なわれた。

前もって出席者を募り、四十名の参加になっていたので、浦頭地区に不幸があり、参加者が半分となりましたが、出席者で場を盛り上げ、短時間ではありましたが十分にお祝いが出来たと思えます。



私たちの新たな決意!!

教会とともに…

小田 洋市



還暦、すぐく重い響き、いつの間にかこんな所まで、

という思いです。振り返ると、仕事（大工）長崎の急な坂道、狭い道、材料運びの大変さ、そこをなんとか乗り越えたと思います。

家の造り方の変化、大工道具の変わりよう、材料の中でも新建材がめまぐるしく変わっている。仕事はだいぶん楽になりましたが、現場での判断の難しさ、今でも悩む所、それが仕事では、四十才で五島に帰って来て、みなさんにお世話になっていきます。やっぱり地元はいいです。どこがと言われても、なんとなくとしか言えないが、心地よい新しい年になりましたが、今までどおり一日一日を大事にして行きたい。

浦頭教会も、もうすぐ五十周年。中も外も少しづつ変わりながら、いい年を重ねてると思います。私も教会とともに…

日々感謝の心で…

浜崎 忍



新年明けましておめでとうございませう。皆様様がワンダフルな一年でありますように！

島のひかりの編集部の方から、五回目の戌年を迎えようとしている私に依頼が。今年の目標とか抱負とかを考えているうちに、立ち止まって自分の五十九年間を思い出してみること。自分の両親には何不自由なく育ててもらい、ただ口うるさく言われたことが「勉強だけは頑張っておきなさい」と、私は言うことを聞かず反省遅しです。

一九八二年に五島に帰って来

ることになり、父は何処に居ても私達が幸せであればと送り出してくれたのですが、空港では隠れて泣いていました。深き愛、父に感謝でした。また、五島の両親も岐阜から来た私の事を氣遣ってくださり、とてもやさしくしてくれました。感謝、感謝です。浦頭教会の皆さんにも、洗礼を授かるうとしている私に仲良くして下さいたり、いろいろなことを教えて下さったりと、我が子に家庭の中での教育、私にはすぐく難しいことだったのですが、教会に行けばお手本があちらこちらに見え、勉強になりました。子育ても終り仕事をすることに。本当に多くの方と出逢い、どの方も良くして下さい、淋しく思うこともなく今まで五島に居られたのかも…凄く感謝してます。私の財産です。これからは、私なりに皆さんに恩返しをしながら、主人と一日でも長く仲良く、元気で暮らしてゆけたらと願ひ、私の目標としたいです。

海猛る波をのりこえて

牢屋の窄殉教祭

久賀島

十月二十九日（日）、毎年恒例の「牢屋の窄殉教祭」が行なわれた。

この日は台風の影響で海は大しけ。海上タクシーは、大きな波しぶきを受けながらの航海。安全を願いつつ祈る人も…？

予定されていたマリア行列、殉教地での記念ミサが中止され、急遽、浜脇教会での御ミサが行なわれ、堂内いっぱいの信徒の中、碑文の朗読と献花に始まり、中村満地区長神父様のもと、各小教区六名の神父様方による共同司式によって、敬虔なお祈りが捧げられた。

非常な苦しみを受け、尊い信仰を守り通した二百余名の殉教者を賛美し、現代を生きる私たちの信仰を新たにしたい。

中村長八神父様の 生涯を追って③

ローマ法王使節からの手紙
「移民の人達の慰安をもちたらし
てくれる人を送って欲しい。」と
いう要望を受けて、駐伯日本公民
館は外務省を通して「文部省」に、
司祭の来伯を要請します。

文部省はその旨を東京の大司
教に伝えましたが、「教区内の
司祭数の絶対的不足から応じら
れない。」との返事を受けます。

一九二二年当時、東京以上に
司教を有していたのは長崎でし
た。要請の答えは長崎に移って
行きます。長崎司教のドン・コ
ンパスは、教区の司祭達に「移
民の人達の為の来伯をしてくれ
る神父を求める。」と伝えます。

「もう年老いておりますので、
さほどお役に立つとは思いませ
んが、もし私でよければ、私が
ブラジルに参りましょう。」
名乗り出た司祭、その人の名

前こそ、当時では老齢に当たる
五十八才のドミンゴス中村長八
神父様でした。

かくして、彼は布教に邁進し
ていた奄美大島から離れる事に
なるのですが、数々の事業を成
し、洗礼、堅信、婚姻等、数々
の秘跡をもちたらし、その人柄に
二十五年も触れて来た信徒の中
村神父来伯という伝えは大変な
衝撃を与えます。連名の嘆願書、
「神父を奄美に残して欲しい」
という要望書も出される中、信
徒代表の「豊さん」の言葉が一
つの結論を導きました。「いつ
までもいて欲しいというのはや
まやまだけど、ブラジルに行か
れる事が神様のおぼしめしであ
るならば、それを妨げる事は、
神のみ旨に背く事になる。」

一九二三年一月九日、奄美大
島から出発した中村神父は旅券
発行の準備の為、しばらく日本
に滞在する事になり、三月には
四日間、生まれ故郷に帰郷。そ
の機に、彼の名で登録された遺
産の譲渡も行なわれました。

五十周年事業

概要決まる!

浦頭小教区が発足してから、
二〇一九年九月四日で五十年目
を迎えます。

役員会・評議会では、節目に
当たり祝賀会を計画。合わせて
記念事業、五十周年記念誌発行
等を行う事が決められました。

祝賀日は二〇一九年九月十五
日(予備日 九月二十二日)。

出席者として信徒の人達はもち
ろん、大司教、歴代主任司教、
下五島司祭、出身司祭・シスター、
各小教区役員の出席を求める事
になります。

実行委員会として、企画部会、
式典部会、記念誌部会、事業・
環境部会の四つの部会の立ち上
げを決定。早速、記念誌部会は
広報委員会・地区委員会を中心
にメンバーを募り、おおまかな
流れを確認する為に一日目の集
まりを行いました。

五十周年事業に向けて
Go!!

秘

跡

《帰天》

パウロ

赤尾 末治 浦頭 八十歳

十二月九日

《成人のお祝い》

一月一日 教会でお祝い式

鍋内 漱君 南河原

大浦 優希さん 平 蔵

《堅信式》

一月二十一日

鍋内 凌空(りく)

保護者 秀喜・美保

濱崎沙也加(さやか)

保護者 毅・久美子

白濱 光玖(みく)

保護者 武・生路



平和のぼら保育園 クリスマスお遊戯会

十二月九日土曜日、平和のぼら保育園のクリスマスお遊戯会が行われました。保護者はもちろん、来賓の方々、おじいちゃんおばあちゃん、地域の方々など沢山のお客さんを迎え、とても楽しいお遊戯会となりました。最初に聖劇『アルカンツェルのおおきなくつ』で幕を開け、続いて小瀬良神父様より、お話がありました。

いよいよお遊戯会の始まりです。まずは、「つぼみぐみ」題目『リンゴントウ』です。りんごの格好での登場です。座っているだけで会場は大爆笑です。



「つぼみぐみ」のパワー恐るべしです。そして、「つぼみぐみ」から年長さん「ぼらぐみ」へとバトンを繋いでいきます。おにちゃん、おねえちゃんのしっかりとした演技に、会場は笑い感動に包まれました。



保育園のお遊戯会より

最後は、お待ちかねのサンタさんの登場です。大きな声でサンタさん呼びます。現れたのはサンタさんとトナカイさんと：なぜか関取？そこはご愛敬。自分の体と同じくらいの大きなプレゼントに笑顔。会場も笑顔。笑顔、笑顔の一日でした。

おたより

主の平和 いつも「島のひかり」楽しみにしております。

皆様方が様々なイベントに一体となり取り組んでおられることに感動です。今回の子供たちの黙想会の感想文では喜びと共に、特に今は教会離れが多い中で子供達が迫害時代の信者の信仰について、又苦しみを堪えてこられたその思いを受けとめ、各自が自分の信仰を深めたいと言う思いになられた事に大変な感銘をうけました。この事は御家庭の方々、シスター方、信者の皆様方の信仰によりはぐくま



れたものと思えます。どうぞ今後とも、信仰の喜びをすべての人々に伝え、後世に続いて行くことが出来ますようお祈り致します。何も出来ませんが、皆様方の御健康と教会の発展のためにお祈りいたします。

ありがとうございます。

天草市 大江修道院

Sr 赤尾 スミエ

島のひかり編集部の皆様、大変お疲れさまです。

浦頭教会のニュース、地域の話題など、盛りだくさんの内容を皆様のご苦労の上にのせ、日本中のあちこちに島のひかりを灯し続けて下さっていることに、感謝いたします。

続けることは本当に大変だと思いますが、故郷の便りを楽しみに待っている人たちが、たくさんおられるでしょうから。

どうぞ、この愛のひかりを灯し続けて下さい。どうぞよろしくお願いたします。

長崎市 中町修道院

Sr 赤尾 津奈恵

狙うはユニクロ商品券

十二月二十四日、御降誕のお祝いの日、夜半ミサ後、恒例の抽選会が行われました。ドキドキワクワクの中、女性部の方が準備して下さった温かい飲み物を頂きながら抽選会が始まりました。

安定の鍋内さんの司会で盛り上がる中、数字が呼ばれると一喜一憂。お年頃の中学生たちはダメ出しをされながらも、商品をもろう時はちょっと背中も嬉しそうに見えました。私は前情報で聞いた青年会の「ユニクロ商品券」を狙いつつ、余裕で座っているとは早々に四等が当たるという…。でも、それも神様のお恵みと思い有難く頂きました。はじめは五名はずれる中、場を察した!?方が一人商品を流し四名へ。しかし、いつの間にか商品も増え、空くじなしの抽選会になりました。幸せな時間を準備して頂いた、たくさんの方々に感謝です。そして、何よりこの時間があるのも主のご降誕があっけな。 Merry Christmas!

クリスマスコンサート

☆☆奥浦混声合唱団☆☆

平和のぼら保育園、奥浦慈恵院、奥浦小学校、福江少年少女合唱団の演奏に客席がなごんだところで、合唱団の演奏が始まりました。

今年の合唱団は、東京芸大の先生の指導を受けて上達したとプログラムのあいさつにあり、聴衆の期待も高まりました。

聴きどころは、カッチーニ、アルカデルト、チャムッティ、シュエルト、四曲のアヴェマリアでした。聖堂に響くマリア様讃歌に満たされたあとに、会場のみんなで「もろびとこぞりて」を歌ってクリスマスを祝いました。コンサートが終わる頃には、あたりはすでに暗くなり、取り付けて間もないイルミネーションのお披露目ともなりました。ご降誕を待ちわびる喜びに満たされながら、教会から下界に降りてゆく人々をきらびやかな光がつつみ、見送りました。

浦頭小教区五十周年
(来年九月)に寄せて

島のひかり編集長

自分達が小学四年生の時、浦頭教会が建てられ、次の年に小教区が発足した事になる。正に、信徒にとっては非常に大きな画期的と言える出来事だ。ただ、私自身はその事に疎かったせいだろう、教会が建てて記念ミサがあった事は記憶にあるのだが、小教区発足については記憶がない。

現在、教会が建っている場所は父母が所有していた畑であった事は、おぼろげながら記憶に残っている。祖父母が住んでいた家の前を通って、牛小屋を右手に見ながら竹やぶを貫いている小道を歩いていくと、湧水が溜まる小池があった。そこから始まる急坂を登り切ると、その麦畑が広がっていて、畑の脇には二つの防空壕が大きな黒い口を開いて山肌の黄土とのコントラストを描いていた。

父親が熱心な信徒だった事もあって、土地を寄贈したのだと思う。教会の歴史の本を読むと、聖堂建立の為に委員会が発足する前に、敷地の完成を祝い、大運動会が行なわれたと記されている。(運動会は、敷地を固めるといった目的もあったとの事)

信徒は主に外海等から信教の自由を求め、あるいは強制的に行なわれていた間引き(生まれつきの子孫を闇から闇へ葬る事)から逃れる為、移住して来た事もあり、辺鄙な土地しか与えられなかった。そんな経済状況の中、建設費用等の負担は想像を絶するものがあったと思われる。

この地に教会が建てられた主な理由として、その時期、車社が徐々に拡大し、小舟等で乗りつけてミサを拝んでいた時代から急速な変化が起こりつつあったことが挙げられる。

聖堂建設は、浦頭教区信徒の情熱と、それを支えた故松下神



堂崎教会周辺

奉仕作業

十月二十二日、壮年会、女性会と合同で年末の奉仕作業が行

父様、野下神父様、Srの方々の強い絆の証しであり、又、それは弾圧を越えて、イエズス・キリストの教えの力強い継承も現している。
聖堂が建てられ、産声をあげた小教区は、以来、この地に行つた幾多の悲喜を見届け、信徒を暖かく見守りながら、今も信仰の鮮やかな光を放ち続ける。

なわれた。半泊教会周辺と堂崎教会周辺の作業が台風接近の強風の中、頑張りました。
シメオン・アンナ会も同時に教会外廻りの剪定と草取り、中村長八神父様生家のマキノ木周辺の草刈り作業が、老体にムチ打って行なわれた。おかげ様で見違える程きれいになった。
又、十一月二十六日はクリスマス前の全体による教会作業と、「ゆめのまちづくり協議会」のメンバーによるイルミネーションの設置は年に一度の事だけに、記憶もあいまいで悪戦苦闘。



信徒達の頑張りもあって、教会内の馬小屋とツリー、庭のツリー、道路のイルミと教会の庭は着飾った花嫁のように美しく輝きを放っていた。
夕方には点燈式も行なわれ、歓声があがった。御苦労さん会も行なわれ、皆で主の御降誕をお祝いするのです。

二〇一八年新年会

待降節を終え、十一月末に飾りつけたイルミネーション撤去を一月七日に行いました。今回も信徒と地区住民合同での作業となりました。役割分担も慣れたもの、昼前には終える事ができました。
夕方からは、各自持ち寄りでの新年会を神羊館で開きました。各々違った料理と、世代を越えた会話で大いに盛り上がりました。

今年、小教区五十周年に向けての準備期間となります。信徒の皆様、宜しく願います。



“ありがとう”

今回も次の方々より沢山の御芳志が届きました。感謝いたします。

- 佐世保市 坂本 砂子 様
- 東京都 中嶋 春代 様
- 奈良県 岩橋 京子 様
- 大阪府 出口 キミエ 様
- 千葉県 入口 春男 様
- 長崎市 Sr 赤尾 津奈恵 様
- 兵庫県 梅木 栄二郎 様
- 東京都 辻本 奈津代 様
- 信言修道会 赤尾道夫 神父 様

ふるま、とだより

眼下に町並 見渡せば海原

(公財) 日本離島センターによって、離島の山一〇〇選に選ばれた鬼岳。

子供教室では、山登りの素晴らしさを感じてもらおうと五島コンカナ王国をスタートして、登りを経ての縦走を計画。

木漏れ日の中、なだらかな坂を数十m登ると、パッと視界が開け、鬼岳の全容が広がる。近くの展望所から福江市街地を見た後、子供達は長い急坂を一気に踏破。真下に見える様な野々切・大窄地区。眼下に見える低空着陸する飛行機。巨大な火口。海原に鎮座する島々。

疲れを知らぬ子供達は、一時間半程の山登りを終えても、元氣一杯。フリスビー遊びや草スキーに興じ、五島を代表する自然を心と体を感じながら、山登りの素晴らしさも記憶の一つにしっかり刻んだ一日でした。



歩こう♪歩こう♪
僕らは元気♪

十一月三日、恒例の奥浦さるくが、奥浦小・中学校の生徒を中心に百十名程、集まって行なわれた。

今度の「さるく」は、観音平の岩屋観音と半泊地区の半泊教会。

岩屋観音は清流の畔の大岩の洞窟の中にある。カクレキリシタンの情熱が伝わる。

半泊教会は教会建築の第一人者、鉄川与助による船底天井で三廊式の民家風の小教会。飾り

を抑えた祭壇の前には、白い壁に水色に縁取りされた清々しい祈りの空間が広がっている。

子供達は、六・二kmの険しい道をなんなく楽しく歩き切った。



中学生ロボコン大会

十一月五日の長崎県大会では、十月に行われた五島市大会での入賞者が頑張り、基礎・活用・映像部門で入賞し、長崎県代表として九州大会出場となりました。

十二月八日、九日に沖繩で九州大会が開催され、活用部門の三年生チームが見事、三位入賞を果たしました。

日々限られた時間の中での製作で、輝かしい成績を収められました生徒・先生・関係者の方々御疲れ様でした。

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。

今年は五年ぶりに雪が降り、見渡す限り白銀の世界となった。雪に慣れていない五島の運転ドライバーは思うように車を走らせる事が出来ない。

今年は戌年。童謡の中に「犬は喜び庭かけまわり」とありますが、最近の犬は家の中で丸くなっています。

来年は、浦頭教会は小教区設立五十周年を迎えます。編集部は、記念誌作成に今年は大忙しです。これからも「島のひかり」を宜しくお願い致します。

- | | | | |
|-------|----|----|----|
| 竹山 | 要司 | 木口 | 重憲 |
| 赤尾 | 淳 | 小田 | 洋市 |
| 竹山 | 巧 | 木口 | 誠也 |
| 入口 | 信 | 江口 | 初子 |
| 田川小夜子 | | 尾崎 | ナオ |